

中国広東省深州市郊外の「新世代農民工」：日系企業M社における最年少一般工員

著者	長谷川 伸
雑誌名	東アジア経済・産業における新秩序の模索
ページ	55-68
発行年	2013-03-31
その他のタイトル	New Generation of Rural-to-Urban Migrant Workers in Shenzhen, China
URL	http://hdl.handle.net/10112/8120

Ⅲ 中国広東省深圳市郊外の「新世代農民工」 — 日系企業M社における最年少一般工員 —

長谷川 伸

はじめに

- 1 日系企業M社の従業員データ
- 2 インタビュー結果：過去と未来
- 3 インタビュー結果：現在

おわりに

はじめに

中国広東省における工場労働は、従来から内陸部からの出稼ぎ労働者、「農民工」によって担われてきた。「農民工」とは、広義には農業戸籍を有する者（中国では「農民」とされる）、かつ、農業以外に就業している者を指す。このうち戸籍地（地元）を6ヶ月以上離れて農業以外に就業する者（外出農民工）が出稼ぎ労働者となり、狭義の農民工とされる¹⁾。中国の国家統計局の推計では、2011年現在広義の農民工は2億5,278万人、このうち狭義の農民工、すなわち出稼ぎ農民工は1億5,863万人とされている（表Ⅲ-1）。

今日、「農民工」を構成するのは主として、「新世代農民工」と言われる1980年代以降に生まれた世代である。中国国家統計局の調査によれば、2009年現在でみて中国全土で1億4,533万人を数えた「農民工」の58.4%（8,487万人）を「新世代農民工」が占めるに至っている²⁾。彼らが「新世代」と呼ばれるのは、それまでの「農民工」と異なる点が多いからであるが、これを勤続期間で見れ

表Ⅲ-1 農民工人口（推計）

（万人）

	2008	2009	2010	2011
農民工計	22,542	22,978	24,223	25,278
(1) 外出農民工	14,041	14,533	15,335	15,863
(2) 本地農民工	8,501	8,445	8,888	9,415

出所) 中华人民共和国国家统计局「2011年我国农民工调查监测报告」2012年4月27日、
http://www.stats.gov.cn/tjfx/fxbg/t20120427_402801903.htm、2012年12月31日閲覧。

ば「清華大学の調査によると、1960-70年代生まれの農民工の1社での平均勤続期間は4.2年間だった。だが80年代生まれは1.5年間、90年代生まれは0.9年間だ。鴻海の人事担当者は『若い農民工ほどきつい労働に我慢できない』と分析する」³⁾。

一方で「新世代農民工」は、都市部へのあこがれと生活レベルを向上させたいという欲求が強いとされている⁴⁾。そのため権利意識が高く、昇進や生活の質に強い関心を示し、待遇改善や都市住民との格差是正を求めて、賃上げストライキなどの労働争議で企業を揺さぶっている⁵⁾。

「一人っ子政策」のもとで生み出された「80后」「90后」と呼ばれる1980-90年代生まれの世代が中心となった「農民工」のプールに、若者はなぜ・どのように加わっていくのか。農村から都市へ出稼ぎに行く者はなぜ・どのように「新世代農民工」となっていくのか。こうした問いに答える上で、最も若い「新世代農民工」、すなわち出稼ぎ労働を始めたばかりの農村出身者の現状を知ることが重要である。ただし、その総体を知ることが容易なことではない。

そこで、我々は最も若い「新世代農民工」、すなわち出稼ぎ労働を始めたばかりの農村出身者の典型として、工場で働く最年少一般工員に注目した。入社間もない最年少一般工員への取材が可能な受入れ先を探したところ、広東省深圳市郊外に工場を有する日系企業M社の協力が得られ、2010年6月にインタビューを実施することができた。本稿の課題は、このインタビュー取材の結果を報告することである。

本稿の構成は以下の通りである。1において日系企業M社の従業員データの分析を行い、2、3では、最年少一般工員へのインタビュー結果の分析を行う。

1 日系企業M社の従業員データ

ここでは、日系企業M社の一般工員（ワーカー）データから17-18歳の一般工員についてわかることを明らかにする。

(1) 従業員データ全体の分析

企業側から提供された2010年4月末時点の従業員データを分析しよう。従業員の職位の内訳は、一般工員487名、班長23名、主任15名、高級主任14名、課長13名、高級課長6名、部長5名の合計563名となっている。以下では一般工員487名（全従業員の86.5%）を分析する。平均年齢26歳、最年少17歳、最高齢55歳となっており、21歳が48名と最も多くなっている。

男女別では、女性が416名であり、全体の85.4%を占めている。最終学歴では、大卒1名、大専卒11名、高中卒52名、中専卒40、本科卒3名、それ未満（中卒）380名となっていて、中卒が全体の78.0%を占めている。

(2) 17-18歳であった一般工員のプロフィール

2010年6月時点で17-18歳であった一般工員は35名いた。彼らは一般工員487名の7.2%、全従業員563名の6.2%を占める。その内訳は以下の通りである。17歳13名（37.1%）、18歳22名（62.9%）。性別では女性34名、男性1名。出身省別では、広東省12名、湖南省7名、広西チワン族自治区6名、江西省2名、四川省2名、貴州省2名、重慶市1名、湖北省1名、河南省1名、雲南省1名となっている。この内訳は、湖南省、広西省、四川省と湖北省が広東省にとってトップ4の人口流入地域とされていることにほぼ合致する⁶⁾。

最終学歴は1名（中専卒）を除いた全員（34名）が中卒である。入社からの

日数で見ると50-99日9名、100-149日13名、150-199日4名、200-249日1名、250-299日3名、300-349日2名、350日以上3名となっている。100-149日が最も多いのは、春節明けの2月下旬入社が多いからである。

(3) インタビュー対象者17名のプロフィール

この17-18歳であった一般工員35名のうち、インタビュー取材が可能となったのは、本人の了承が得られ、かつ、本人の都合が取材日程に合致した17名であった(表Ⅲ-2)。この17名の内訳は以下の通りである。17歳7名(13名中7名=53.8%)、18歳10名(22名中10名45.5%)。性別では女性16名、男性1名。出身省別に見ると、広東省6名、広西チワン族自治区4名、江西省2名、湖南省2名、四川省1名、湖北省1名、河南省1名となっている。

最終学歴は1名(中専卒)を除いた全員(16名)が中卒である。入社年で見ると、2009年4名、2010年13名となっている。入社からの日数で見ると50-99日5名、100-149日8名、150-199日2名、300-349日2名となっている。100-149日が最も多いのは、春節明けの2月下旬入社が多いからである。

(4) 小括

1では、日系企業M社の一般工員(ワーカー)データから17-18歳の一般工員についてわかることを明らかにすることがねらいであった。わかることは下記の通りである。

第1に、全従業員のうち9割以上を占める一般工員の内訳は、17歳から55歳まで年齢の幅はあるが平均値26歳、最頻値21歳であり、性別では女性が9割近くを、最終学歴では中卒が8割近くを占めている。第2に、一般工員の7.2%を占める17-18歳35名の内訳は、34名が女性であり、34名が中卒である。出身は広東省が最も多く、広西チワン族自治区、江西省、四川省、貴州省が複数名いる。入社からの日数は100-149日、50-99日が顕著に多い。第3に、この17-18歳の一般工員のうちインタビュー取材が可能となった17名の内訳は、16名が女性であり、

Ⅲ 中国広東省深圳市郊外の「新世代農民工」(長谷川)

表Ⅲ-2 インタビュー対象者17名のプロフィール

	年齢	学歴	生年	出身省	性別	入社年月	入社日数	入社理由	工場労働*	居住形態
A	18	中卒	1992年	江西省	女	2009年12月	189	家族(姉)	n.a.	寮
B	18	中専卒	1992年	江西省	女	2009年7月	344	知人(同郷)	1	寮
C	18	中卒	1992年	広東省	女	2010年3月	98	n.a.	2	寮
D	18	中卒	1992年	河南省	女	2010年4月	70	知人(同郷)	0	寮
E	18	中卒	1992年	広西省	女	2010年2月	110	知人(同郷)	1	寮
F	18	中卒	1992年	広西省	女	2010年2月	111	家族(姉)	n.a.	外住(姉)
G	18	中卒	1993年	広西省	女	2010年3月	95	親戚	1	外住(親戚)
H	18	中卒	1993年	湖南省	女	2009年12月	175	家族(父母)	0	外住(父母)
I	18	中卒	1993年	四川省	女	2010年2月	111	家族(父)	0	外住(父)
J	18	中卒	1993年	広東省	男	2010年3月	99	家族(姉)	1	寮
K	17	中卒	1993年	湖北省	女	2009年8月	302	親戚	1	寮
L	17	中卒	1993年	広東省	女	2010年2月	111	親戚	1	n.a.
M	17	中卒	1993年	湖南省	女	2010年2月	111	知人(同郷)	0	寮
N	17	中卒	1993年	広西省	女	2010年2月	110	家族(姉)	0	外住(姉)
O	17	中卒	1993年	広東省	女	2010年4月	54	家族(兄)	1	外住(友人)
P	17	中卒	1993年	広東省	女	2010年2月	112	知人(同郷)	n.a.	外住(友人)
Q	17	中卒	1993年	広東省	女	2010年2月	112	親戚	1	外住(姉)

註) * 0 = 工場労働が初めて、1 = 以前に1ヶ所で工場労働を経験、2 = 2ヶ所で工場労働を経験。

16名が中卒である。出身は広東省が最も多く、広西チワン族自治区、江西省、湖南省が複数名いる。入社からの日数は100-149日、50-99日が顕著に多い。

以上からわかることは、一般工員全体を取り出してみても、最年少の17-18歳35名を取り出してみても、性別では女性が、最終学歴では中卒がそのほとんどを占めている、ということである。17-18歳の一般工員35名と、そのうちインタビュー取材が可能となった17名の内訳を比較してみると、性別、最終学歴、出身省いずれもほぼ近似していることがわかる。したがって、この17名のインタビューデータから、最年少17-18歳35名の状況を推察しうると言えよう。

2 インタビュー結果：過去と未来

ここでは、最年少一般工員へのインタビュー方法について触れた後、インタビュー結果のうち、過去と未来に焦点をあてる。すなわち、深圳を出稼ぎ先に選んだ理由とこの工場を選んだ理由と、将来の希望についての回答結果を明らかにする。

(1) インタビューの方法

インタビューは、工場内のミーティングスペースにて、中国語通訳を介した個別面接形式で行った。所要時間は一人につき20-30分程度であった。以下を質問項目とした。

(0) 対象者の最終学歴と家族構成

(1) 深圳に出稼ぎに来た時期と理由

(2) この工場を選んだ理由と勤務経験の有無

(3) 入社後の受け止め（仕事に慣れたか、生活に慣れたか）

(4) 将来の希望

(2) 深圳を出稼ぎ先に選んだ理由

深圳を出稼ぎ先に選んだ理由は、家族（親・兄弟）が在住（8名）、同郷の知人が在住（4名）、親戚が在住（4名）となっている（1名は不明）。ほとんどが深圳在住の家族・親戚・同郷の知人を頼って出稼ぎに来たようだ。なお、彼らが頼った深圳在住の家族・親戚・知人は、いずれも出稼ぎであると推測される。家族が深圳在住だからとした8名について見ると、その家族とは姉4名、父母2名、父1名、兄1名としている。この8名のうち、家族と暮らしている者は、父母と暮らす湖南省出身者と父と暮らす四川省出身者の計2名である。この2名は、親も出稼ぎ労働者である、いわゆる「出稼ぎ二世」と言えよう。

一方で「深圳は賑やかで繁栄していて、ここに来たらいろいろなことが学べ

るというイメージがあったから」「テレビのニュースを見て、深圳の発展はよりよいと思ったから」「深圳は他の都市に比べて発展していることを、この近隣の工場で働いていた年上のいところが教えてくれた」「親戚の話から、深圳は発展していて良いと思ったから」として、深圳の経済発展を理由に挙げた者が4名いる。ここからは、都市にあこがれる「新世代農民工」の特徴が見て取れる。同時に、その情報源として2名が家族・親戚を挙げていることにも注目したい。

(3) この工場を選んだ理由と勤務経験の有無

この工場を選んだ理由が判明している15名はすべて、紹介（勧め）によるものである。紹介者は、同郷の知人6名、姉5名、親戚3名、父母1名となっている。このうち、この工場で働いている（働いていた）者の勧めによるものが5名（姉4名、同郷の知人1名）となっている。

17名のうち8名が働くことが初めてである。入社前に勤務経験者は9名あり、1ヶ所8名、2ヶ所1名となっている。職場を変えた理由としては「姉がいて、面倒を見てくれるから」「この工場にはクラスメイトがいるから」「待遇がまあまあいい。以前に同郷の人がここで働いていたことがある」「その工場は給料が安く、管理もされていなかった。この工場は評判が良く、友人がいた」「給料が低くて、食費が高くて、給料がごまかされていた」「荷物を運ぶ仕事に慣れずに辞めた」「この前の工場は給料も良くないし、きちんと管理されていない」などとなっている。親族や同郷の友人を頼って、よりよい労働条件を求めて職場を変えたことが窺える。

(4) 将来の希望

将来の希望や夢については、仕事内容まではっきりしているもの（「衣服の店を開きたい」「英語の先生になりたい」）は少数である。働き方（「自分に役に立って、楽で働く環境が良くて、気持ちよく働ける仕事を見つけない」）や誰とどこに住むかなどの暮らし方（「まだ考えたことがないが、両親と暮らしたい。両親

親と一緒に暮らしができるようにがんばります」「还没有。深圳か出身地で暮らしたい。何年かはここ深圳で暮らしたい」も散見される。

一方で、「まだわからない。夢はあるが、変わるかもしれない」「将来はまだわからない」「まだ考えたことがない」など、将来をイメージできない／していない者もいる。なかには将来に備えて「現実的には生活のためにお金をためること」としている者や「舞踊を教える先生になりたかった（過去の夢）。打工になってしまったので、実現する可能性はないかもしれない」として将来を悲観している者もいる。

(5) 小括

2では、最年少一般工員へのインタビュー方法について触れた後、深圳を出稼ぎ先に選んだ理由とこの工場を選んだ理由と、将来の希望についての回答結果を明らかにすることがねらいであった。わかることは下記の通りである。

第1に「新世代農民工」の特徴である都市へのあこがれを示す者もいるが、ほとんどが深圳在住の家族・親戚・同郷の知人を頼って深圳を出稼ぎ先に選んだ。彼らが頼った深圳在住者も出稼ぎ農民工であり、彼らの中には「出稼ぎ二世」も含まれていると推測される。第2に、この工場を選んだ理由については、家族・親戚・同郷の知人による紹介（勧め）がほとんどである。勤務経験がある者となない者とで半々に分かれるが、勤務経験者については親族や同郷の友人を頼って、よりよい労働条件を求めて職場を変えたことが窺える。第3に、将来の希望については、仕事内容まではっきりしているものは少数である。働き方や暮らし方も散見されるが、将来をイメージできない／していない者、悲観している者もいる。

以上からわかることは、出稼ぎ先の地域と工場を決める際にも、転職する際にも、家族・親戚・同郷の知人を頼ることが多いということである。すなわち、伝統的な血縁・地縁関係は農民工の移動、就職で重要な役割を担っているのである⁷⁾。都市へのあこがれやよりよい労働条件を求めて短期間でも転職すると

いう「新世代農民工」の特徴も散見されるが、家族・親戚・同郷の知人を頼っての行動することが優勢である。一方で、将来の希望については限定的に捉えており、明るい将来があるとは考えていないようだ。これは、頼みの綱である家族・親戚・同郷の知人も自分たちと同じ出稼ぎ農民工となってしまうという現実の反映なのかもしれない。

3 インタビュー結果：現在

ここでは、最年少一般工員へのインタビュー結果のうち、現在に焦点をあてる。すなわち、入社後の仕事と居住についての回答結果を明らかにする。

(1) 仕事

仕事については、17名全員が「慣れた」「まあ慣れた」と答えている。ただし、4名は入社当時や新しい仕事に切り替わった際は慣れるのが大変だったとしている。下記の通りである。「当初は製品のことを知らなくて大変だったが、慣れたら大丈夫」(入社344日目、以下同じ)。「ここで働き始めた当初は大変で疲れてしまいました」(189)。「この工場で働き始めた当初はとても不慣れであったが、現在は慣れて楽になっている」(110)。「5月から誤った半田づけを直す作業をしているが、初めての仕事なので慣れていない」(95)。

また、残業について触れたのは1名だったが、残業が多くて大変だったとしている。「夜10時までの残業はつらい。その分休ませてくれればいいのに、1週間続けての残業はつらい。働き始めた当初は残業で忙しくて大変だった。この5-6月はまだ楽だが、それまでは残業が多かった。残業の波をなくしてほしい。4月は我慢できないほど疲れ果ててしまった。みんなもそう言っている」(110)。

一方で、4名が職場で楽しいこととして、下記の通り職場の同僚との交流に言及している。「仕事がない時、一般工員たちと話したり、笑ったりすることが

楽しい」(112)。「仕事をするときは仲良くできて楽しい。新しいことを勉強することもできている」(344)。「楽しいことは、一般工員同士で職場でも寮でも仲良くしていること」(189)。「他の一般工員と楽しく仕事ができる」(110)。

(2) 「外住」

広東省深圳市においては、寮の方が安全であるとの認識は一般工員も持っているにも関わらず、3年ほど前から外に住むのを好むようになったと言われている⁸⁾。工場敷地内にある工員寮に住まず、敷地外にアパートを借り住むことを「外住」と言う。広東省深圳市郊外の日系工場団地テクノセンターによれば、一般工員は現在、半分以上は「外住」している。2008年から外省人には「暫住証」ではなく「居住証」が交付されるようになり、13桁の住所コードがあれば、会社の寮以外に住むことを認められるようになった。現在、テクノセンターには一般工員が約2,000人いるが、寮に住んでいるのは半分以下である。テクノセンターの寮なら本人負担月60元だが、3-4名で住める月100元の物件もある。そうしたアパートに彼女・彼氏や仲間同士で住んでいる。外住の方が割安感があるし、実際に安い場合も多い。また「お湯のシャワーを浴びたいから」「自由が欲しいから」とも聞いている⁹⁾。

インタビュー対象者17名のうち8名が、工員寮ではなく、近隣のアパートなどに住んでいる（いわゆる「外住」している）ことが判明した。工員寮を最も必要としているはずの、出稼ぎに深圳に来た入社間もない一般工員がすでに外住していることが注目される。では、誰と「外住」しているか。一般には友人と暮らすケースが多いようだが、同居相手は親（2名）、姉（3名）、親戚（1名）、友人（2名）となっており、すでに出稼ぎに出ている親や兄弟と暮らすケースが目立つ。これは本人たちが「出稼ぎ2世」であること、1家族から2名以上の出稼ぎ者が出ていることの反映でもある。これは「実家から2人以上の出稼ぎ者が出ている回答者は4分の3にも上る」¹⁰⁾ ことと符合する事実である。

(3) 工員寮

一方で、外住せずに寮に住んでいる一般工員の寮生活に対する印象は下記の通りとなっている。「寮での生活も慣れることができますと思います。外には住みたくない。寮は安全だから」。「寮はにぎやかで楽しい。年上が多いので優しくしてくれる。外住しようとは思わない。なぜなら、家族から禁じられている」。「寮生活は『可以』だが不便。3階に住んでいるが、飲むお湯も1階から持っていくといけない。コンセントが2階にしかなくて、携帯電話の充電に不便」。「寮生活は、一部屋あたりの人数が5-6名と多すぎる。ただし、ルームメイトとの関係は良い。寮は生活には不便。2-3階の人は1階までお湯を汲みにいかなければならない。とくに雨の時には傘をささなければならないので大変だ。外住は考えてみたことはあるが、安全面で不安がある。とくに残業で夜遅く帰るのは怖い」。「寮生活については一部屋当たりの人数が多すぎる。あとはだいたいいい」。

こうした回答からは、外住と比べての寮の安全性と人間関係については評価するが、一部屋当たりの収容人数の多さや給湯器や電源コンセントなどの設備面に不満を抱いている姿が浮かび上がってくる。なお、携帯電話を所有していたのは17名中8名であった。ここには「かつては家族への仕送りのために、休日出勤もいとわず働いた。だが1980年代以降に生まれた『現代の農民工』は賃金だけでなく、寮、食事などの生活環境や仕事内容にもこだわる」¹¹⁾とする新世代農民工の特徴が現れている。

(4) 小括

3では、最年少一般工員へのインタビュー結果のうち、入社後の仕事と居住についての回答結果を明らかにすることがねらいであった。わかることは下記の通りである。

第1に、仕事については全員が「慣れた」「まあ慣れた」としている。入社当時や新しい仕事に切り替わった際は慣れるのが大変だったとする者、職場の同

僚との交流が楽しいとする者が少数だがいる。第2に、半数近くが「外住」し、残りの半数以上が工具寮に居住している。「外住」する者は、すでに出稼ぎに出ている親や兄弟と暮らすケースが目立つ。工具寮に居住する者は、寮の安全性と人間関係については評価するが、設備面に不満を抱いている傾向が見られ、そこに新世代農民工の特徴が見て取れる。

以上から浮かんでくるのは、家族や親戚、同郷の知人との古くからの関係と、自分と同じ境遇にある職場の同僚や工具寮のルームメイトとの新しい関係に依拠しつつ、時として新世代農民工らしく不満を口にしつつも、生き残ろうとする姿である。

おわりに

本稿の課題は、2010年6月に行った広東省深圳市郊外の日系企業M社の工場で働く最年少一般工具に対するインタビュー取材の結果を報告することであった。

1では、日系企業M社の一般工具は性別では女性が、最終学歴では中卒がそのほとんどを占めている。このことは最年少17-18歳35名についても、インタビューが可能となった17名についても言えることである。17名のインタビューデータから、最年少17-18歳35名の状況を推察しようとした。

2では、都市へのあこがれやよりよい労働条件を求めて短期間でも転職するという「新世代農民工」の特徴も散見されるが、家族・親戚・同郷の知人を頼って移動・就業することが優勢である。一方で、将来の希望については限定的に捉えており、明るい将来があるとは考えていないようだ。これは、頼みの綱である家族・親戚・同郷の知人も自分たちと同じ出稼ぎ農民工となってしまう現実の反映なのかもしれないとした。

3では、家族や親戚、同郷の知人との古くからの関係と、自分と同じ境遇にある職場の同僚や工具寮のルームメイトとの新しい関係に依拠しつつ、時とし

て「新世代農民工」らしく不満を口にしつつも、生き残ろうとする姿が浮かび上がってきた。

以上より、明らかとなるのは以下の点である。最年少一般工員は、「新世代農民工」の特徴も散見されるが、その行動は依然として血縁・地縁という古くからの関係に依拠することが多い。しかし、そうした関係は盤石ではない。彼らが、出稼ぎのために家族や親戚、同郷の知人に頼ったり、一緒に働いたり、暮らしたりすることができるのは、そうした人々自身が出稼ぎ農民工だからである。自分たちと同じ境遇にある職場の同僚や工員寮のルームメイトとの新しい関係にどれほど期待できるかも未知数だろう。だからこそ、17-18歳の若者であっても将来を楽天的にとらえることができないので、関係よりも権利を重視する「新世代農民工」として活路を見出そうとしているのかもしれない。

(謝辞) インタビュー取材に快く協力していただいた日系企業M社に記して感謝の意を表します。

※本稿は、経済・政治研究所平成23-24年度東アジア経済・産業研究班および平成22年度関西大学在外研究による研究成果の一部である。

注記

- 1) 中华人民共和国国家统计局「2011年我国农民工调查监测报告」2012年4月27日、http://www.stats.gov.cn/tjfx/fxbg/t20120427_402801903.htm、2012年12月31日閲覧。
- 2) 中华人民共和国国家统计局「新生代农民工的数量、结构和特点」2011年3月11日、http://www.stats.gov.cn/tjfx/fxbg/t20110310_402710032.htm、2012年12月31日閲覧。
- 3) 「中国の製造現場、労働者集まらず、定着せぬ若者、鴻海も苦戦」『日本経済新聞』2012年12月8日付。
- 4) 「中国賃上げ要求過熱—生活向上の夢、過酷な労働、苦悩の出稼ぎ農民」『日本経済新聞』2010年6月2日付。
- 5) 「中国揺れる労働市場(上) 出稼ぎ農民「格差是正を」一賃上げスト、なお収まらず」『日本経済新聞』2010年12月16日付、および「変わる中国日本企業の挑戦(中) 望み高い一人

- っ子従業員一昇進の道、意欲引き出す」『日本経済新聞』2012年5月5日付。
- 6) 厳善平『中国農民工の調査研究：上海市・珠江デルタにおける農民工の就業・賃金・暮らし』晃洋書房、2010年、157頁。
 - 7) 厳善平『中国農民工の調査研究：上海市・珠江デルタにおける農民工の就業・賃金・暮らし』晃洋書房、2010年、201頁。
 - 8) 石井次郎氏からの聞き取り、2010年6月3日。
 - 9) 西村三砂氏からの聞き取り、2010年6月3日。
 - 10) 厳善平『中国農民工の調査研究：上海市・珠江デルタにおける農民工の就業・賃金・暮らし』晃洋書房、2010年、189頁。
 - 11) 「変調中国雇用事情（上）脱・農民工時代へー労働集約型に限界」『日本経済新聞』2006年7月29日付。

参考文献

- 「変わる中国日本企業の挑戦（中）望み高い一人っ子従業員一昇進の道、意欲引き出す」『日本経済新聞』2012年5月5日付。
- 厳善平『中国農民工の調査研究：上海市・珠江デルタにおける農民工の就業・賃金・暮らし』晃洋書房、2010年。
- 中华人民共和国国家统计局「新生代农民工的数量、结构和特点」2011年3月11日、http://www.stats.gov.cn/tjfx/fxbg/t20110310_402710032.htm、2012年12月31日閲覧。
- 中华人民共和国国家统计局「2011年我国农民工调查监测报告」2012年4月27日、http://www.stats.gov.cn/tjfx/fxbg/t20120427_402801903.htm、2012年12月31日閲覧。
- 「中国の製造現場、労働者集まらず、定着せぬ若者、鴻海も苦戦」『日本経済新聞』2012年12月8日付。
- 「中国賃上げ要求過熱一生活向上の夢、過酷な労働、苦悩の出稼ぎ農民」『日本経済新聞』2010年6月2日付。
- 「中国揺れる労働市場（上）出稼ぎ農民「格差是正を」一賃上げスト、なお収まらず」『日本経済新聞』2010年12月16日付。
- 「変調中国雇用事情（上）脱・農民工時代へー労働集約型に限界」『日本経済新聞』2006年7月29日付。